

「品質保証に係る顧問会」(第8回)議事録(要旨)

1. 日 時 : 平成19年10月4日(木) 13:00~16:15

2. 場 所 : 日本原燃(株) 東京事務所(物産ビル別館6階) 第一会議室

3. 出席者

(1)顧 問

(主 査) : 宮村 中央大学教授 (代行)

(委 員) : 猪原 大阪電気通信大学教授

今井 住友化学(株) レスポンシブル ケア室 品質保証担当部長

小林 (財)日本航空協会 常務理事 航空スポーツ室長

新堀 東北大学准教授

(五十音順)

(2)日本原燃

(同席者) : 兒島社長, 平田副社長, 峰松副社長, 池田専務,
大和濃縮事業部長, 野口埋設事業部長,
桑原品質保証室長, 村上品質保証室・担任,
入江再処理事業部副工場長, 青柳再処理事業部技術部長,
田中再処理事業部技術部部長, 朝日再処理事業部品質管理部長,
大森安全技術室部長, 新沢品質保証室品質保証部長,
奥本品質保証室部長, 佐々木品質保証室品質保証計画GL

(事務局) : 高瀬品質保証室課長

4. 議事要旨

(1)開会挨拶

日本原燃より, 開会挨拶を行った。

(2)社長挨拶

兒島社長より, 顧問会の開催にあたり, 日本原燃の近況を含め挨拶を行った。

(3)第7回顧問会の議事録確認他

日本原燃より, 第7回顧問会での評価・アドバイスに対する対応方針の概要について説明を行った。

(4)品質保証活動の実績

日本原燃より, 日本原燃が実施した平成18、19年度の主な品質保証活動の実績について説明を行った。

(5)アクティブ試験の実施状況

日本原燃より, 再処理工場のアクティブ試験第3ステップの結果及び今後の予定、耐震計算の誤入力について説明を行った。

(6)業務の見える化プロジェクトの推進

日本原燃より、業務の見える化プロジェクトの推進状況について説明を行った。

(7) 不適合未満の取組みによる信頼性向上

日本原燃より、不適合管理の改善における不適合未満の取組みによる信頼性向上について説明を行った。

(8) 安全文化醸成のための取組み状況について

日本原燃より、安全文化醸成のための取組みについて説明を行った。

5. 主なアドバイス他

(1) アクティブ試験の実施状況

- ① 変更管理で重要な変更の時には、その変更に伴い変える必要がある項目全てを留意点として記載すると良い。周知については決まったフォーマットの帳票を使い、留意点の記載漏れが出ないように工夫をしたり、変更内容を教育する等徹底した対応が必要である。事故の75%は、変更に係る不具合である。
- ② マニュアル、社内規定文書等の作成にあたっては、1人ないし2人が全体を通してみて、フォーマット、記載程度、用語の使い方を統一し、解釈の違いをなくすことが大切である。

(2) 業務の見える化プロジェクトの推進

- ① 自分の仕事のお客様は誰で、期待されているものが何で、その仕事のアウトプットは何か、各人、各職位が自分の仕事のミッション、付加価値を明確にして業務フローを作成すると良い。
- ② 業務の細分化が進むと、大事なことが2つある。1つ目はコーディネーション、2つ目はモチベーションである。部門間やプロセスのインターフェイスを見えるようにしておかないとコーディネーションができない。また、自分の仕事が最終的な仕事とどう結びつくかの流れが見えないとモチベーションが維持されず、質の高い仕事とならない。それを一人ひとりに気付いてもらうという意味で業務フローは重要であり、魂を入れてほしい。

(3) 不適合未満の取組みによる信頼性向上

- ① 不適合には、アクティブフェイリャー(実際に壊れた)と、レイテントフェイリャー(潜在的なもの)という分類がある。ここでいう不適合未満とは、潜在的に起きる可能性のある不適合なのか、発生したが非常に軽微な事象なのかよくわからない。不適合未満の定義を明確に記載しておいた方がより明確となる。
- ② 不適合未満の中に仕組み、業務のマニュアル、標準に係る案件が上がっていることは大変良い。

(4) 安全文化醸成のための取組み状況について

- ① 安全文化は、「個は全体のために、全体は個のために」の考えが大事。この発想を入れて取組んでほしい。
- ② 協力企業が起こしたトラブルも社内の問題として対応しなければならないことを踏まえ、こういった取組みを協力会社にもよく伝える必要がある。
- ③ 安全文化は価値観であり、業務の見える化や不適合管理といった改善活動を通して安全の基盤を形成していき、地道に継続していくことで、しっかりと安全文化を醸成できるように取組んでもらいたい。

以上